

紀宝町に伝わる弁慶伝説

弁慶産屋の楠跡



紀宝の
珍百景
認定

今回の珍百景は、弁慶産屋の楠跡をご紹介します。

弁慶といえば、「義経記」などに登場する有名な人物で、源義経こと牛若丸と戦い、その後義経の忠実な家来になるなど、数々の伝説が残っています。

弁慶の実在は定かではなく、出生の地も諸説ありますが、そのうちの1つが、鮎田区にある弁慶産屋の楠跡で、今は約100平方メートルほどの敷地に石碑が建てられており、石碑の正面には「弁慶産屋楠跡」と刻まれています。

ここが弁慶の誕生地とする伝承資料は寛永十九年（1642年）の「紀伊新宮藩 御領分村々方角・家数道法書上」で、「鮎田村弁慶つがや楠と申し伝楠一本有り。廻り九尋、高さ十三間。弁慶のたま石（別名ひのみいし）と申伝、廻り五尋、湯の谷と申す所にあり。湯少し出で候（以下略）」とあります。

かつてこの場所には高さ約23メートル、幹周り約15メートルの楠があり、そこで弁慶は生まれたと伝えられています。

残念ながら寛政7年に火の不始末が原因で、楠は焼けてしまったようですが、成川の龍光寺の扁額（へんがく）は燃え残りの木で作られたものだといわれています。

参考文献 「文化財を訪ねて」 「紀宝町誌」

今年も中学生と一緒に取材

今年も矢渕中学校の職場体験学習の受け入れを役場の広報係でさせてもらいました。

3人の生徒さんたちと一緒に職場体験学習をしている各職場へ行って、写真を撮ったり、インタビューをしたりして、4〜5ページの広報を作りました。

そして、実は今回の表紙と4〜5ページの写真は生徒さんが撮影したものです。生徒さんたちは最初は一眼レフカメラの重さに戸惑っていたものの、どんどん使い方を覚えていき、楽しそうに何枚も写真を撮っていました。僕の準備不足など反省点もありましたが、少しでも参考になることがあればうれしいです。

また、取材を受けてくれた職場の方には、他の生徒さんを受け入れてくれるようお願いしているお忙しい中、取材させていただき、ありがとうございました。

少し話が変わりますが、僕が中学生のときに、職場体験学習はなかったのですが、多くの職場がある中でどうやって職場体験学習先を選んだのか、生徒さんに聞いてみたところ、職業適性検査をして、その結果をもとに決めたとのことでした。

その話を聞き、面白そうだとインターネットで検索し、試しに適性検査をしました。

2択の質問を数十問答えたところ、僕は測量士が向いているという結果に。僕が中学生の時にこの検査をしていたら、今ごろは違う仕事をしてたかもしれませんね。

（適性検査では社会性が低かった 愛野裕基）



仕事の内容や感想を取材



広報係の
職員です。